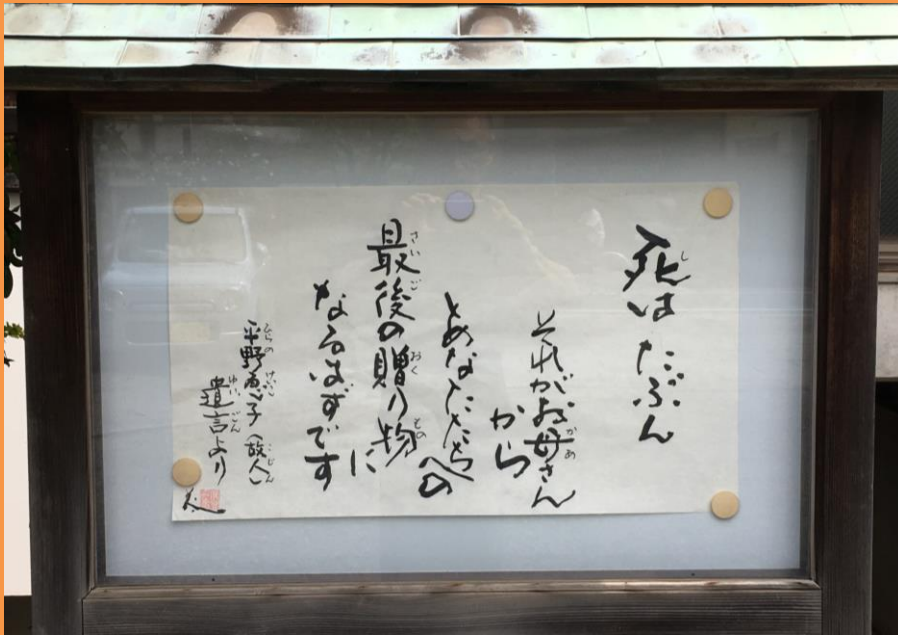


真宗大谷派 存明寺通信

NO.193

2019年(仏歴2550年)11月2日発行

お寺の掲示板の言葉



死はたぶん

それがお母さんから

あなたたちへの

最後の贈り物に

なるはずです

(平野恵子さんの遺言)

平野恵子さんは、岐阜県高山市のお寺の坊守さんだった。自らの死を意識しながら3人の子どもたちに手紙を書き続けた。その手紙の中にあつた言葉がこの言葉だった。

このような言葉を残して平野さんは41歳の若さでこの世を去っていった。死は最後の贈り物。とても心に響く言葉だ。死といういのちの事実、実はその人の最後の贈り物。残された者は誰もが、その人の死をしっかりと受け止めていかなければならない。

残された者が感じる悲しみ・空しさ・寂しさ・自責の念も、それが亡き人からの最後の贈り物。だからそれらを大切に経験していかなければならない。

それは大切な人を亡くした誰もが受け取るべき、最後の、そして大切な贈り物なのだから・・・。

(住職)

存明寺第十一世坊守・釋尼香陽

長い間お世話になりました

【二挨拶】

前坊守である母・酒井陽子は、病氣療養中でありましたが、去る8月末、お浄土へ還っていきましました。

皆様には長い間大変お世話になりました。

誠に有難うございました。

合掌

○俗名 酒井陽子

○法名 釋尼香陽

○命日 2019年8月27日

○寿算 84歳



人間は年を取るんだよ。病いにもなるんだよ。体も不自由になるんだよ。そしてね、やがて息が止まるんだよ。

母はそのことを、言葉ではなく、体全体できちんと示して、この世を去っていったのでした。それはまさに、母からの「最後の贈り物」でした。

そんな母と別れた秋、以前に聞いた次の言葉が、じんわりと私に影響してきました

母去りて

はじめて親の恩を知り

母去りて

いのちの重さを知り

母去りて

身の無力を知る

母去りて

はじめて人間を知る

尊きは 去りてはじめて

母となりし人

(藤元正樹・大谷派僧侶)

親の恩。母がいなくなつて初めて恩を知ることがあるようです。それは逆に言えば、失わなければ、その有り難さになかなか気が付けない、ということなのかもしれません。

身の無力。苦しむ人のそばにしながら何もできないという無力さも感じました。まして親孝行など、なかなかできないものだと思感しています。

人間を知る。死にゆくいのちを生きるもの人間。悲しみ苦しみ罪悪感などいろいろなものを抱えるもの人間。それらのことを教えて母は去っていきましました。

亡き人とふたたび出遇い直すという宿題が与えられたようです。人々に教えられながら、そのような再会への道を求めて歩いていきます。(住職・酒井義二)

前坊守は昭和10年、赤坂の浄土真宗のお寺の三女として生を受け、23歳の時に存明寺に嫁いできました。以来2014年に退職するまでの56年間、存明寺の坊守としてお寺を切り盛りしてきました。晩年は腰痛や認知症を患い、昨秋に脳梗塞で倒れ、およそ10か月の間、寝たきりの生活となりました。

今年の8月末、お医者さんから「今日か明日か」というお話があり、子や孫たちが病院に泊まり込んでの日々がありました。3日目の早朝、皆が見守る中、母は息を引き取っていきました。

母は寝たきりで言葉も発しませんでした。この十カ月の間、多くのことを私たちに伝えていきました。



お寺の写真館



↑ 深神散歩のガイド:熊崎尚登さん(右端)



↑ 深大寺の門前で集合写真。



↑ バラが有名な神代植物公園にて。



↑ こども食堂、ロビーに集合の図。



↑ こども食堂、「長生きしてね」って。

「死んでも浄土に行きたくない」。仏教嫌いの上田さんのお母さんがガンになり、末期をホスピスで過ごすことに。そのお母さんから「浄土や阿弥陀さんの話を30分ですてほしい」と依頼されたのが、実は存明寺住職でした。

さてその時、住職はどのような行動に出たのでしょうか。そして仏教嫌いのお母さんはいったいどうなったのでしょうか。

■紹介・上田紀行さんの本

上田紀行さん（文化人類学者）の最新刊『立て直す力』の中に、なんと存明寺住職が登場しています。

続きは『立て直す力』をご覧ください。ご注文はネットか書店で。

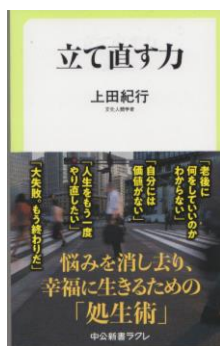
存明寺でも販売中。ご希望の方には郵送もいたします。

『立て直す力』

上田紀行著

中公新書ラクレ

820円＋税



■深神散歩（じんじんさんぽ）

秋晴れに恵まれた10月上旬、存明寺日帰り旅行会が行われました。今回はお寺の近くにありませんながら、あまり訪れることのない深大寺と神代植物公園を歩きました。題して深神散歩（じんじんさんぽ）。

深大寺ではボランティアガイドをしている熊崎尚登さん（存明寺世話人）がたっぷりと楽しいガイドをしてくださいました。植物公園を散歩した後は夕食交流会。クイズタイムや景品タイムなどがあり、大変盛り上がった深神散歩でした。

■存明寺こども食堂

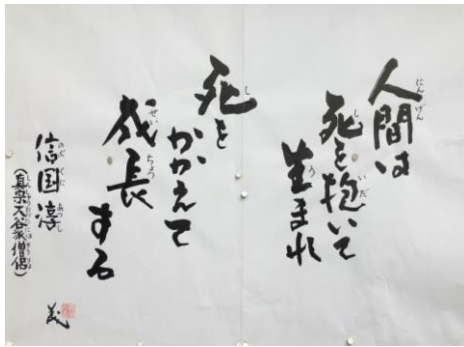
2019年9月、スタッフを含めて89名が参加。この日なんとサプライズで「住職の還暦祝い」をしてくれました。手書きのメッセージ集を皆さんからいただき、とっても感激。

「いつもありがとう」「60には見えない」「だいすき」「いつまでも元気で長生きしてね」などなど。ちなみに人さまから「長生きしてね」と言われたのは、この日が初めてです。そんな還暦の秋の頃。住職、いよいよ60代に突入しました。

お寺のひろば 2019 【年区】

11月9日(土) 13時半 樹心の会
 お話：岸木勉さん・高岡文子さん・住職
 12月14日(土) 13時半 樹心の会
 お話：三好浩一さん・住職
 12月21日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 大切な方を亡くされた人々のつどい

◎ぞんみようじこども会 月一回
 ◎ぞんみようじこども食堂 月一回
 ◎子育てサロンいちごのへや 月一回



お寺の掲示板 10月の言葉



お寺のひろば 2020

1月1日(水) 10時 修正会
 3月7日(土) 14時 樹心の会
 3月13日(金) 13時 清掃の日
 3月20日(金) 11時と13時 春のお彼岸法要
 3月28日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 4月18日(土) 14時 樹心の会
 (東京五組同朋大会に参加)

4月25日(土) 10時 おみがきのつどい
 5月3日(日) 12時 永代経法要(荒山淳師)
 5月16日(土) 14時 樹心の会
 6月13日(土) 14時 樹心の会
 6月27日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 7月4日(土) 11時 新盆法要
 7月12日(日) 11時と13時 お盆法要
 8月29日(土) 午後 青年のつどい
 9月12日(土) 14時 樹心の会
 9月18日(金) 10時 清掃の日
 9月22日(火) 11時と13時 秋のお彼岸法要
 9月26日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 10月10日(土) 14時 樹心の会
 10月24日(土) 10時 おみがきのつどい
 11月2日(月) 14時 報恩講のゆうべ
 11月3日(火) 12時 報恩講法要(田中顕昭師)

11月14日(土) 14時 樹心の会
 11月28日(土) 11時 存明寺帰敬式
 12月12日(土) 14時 樹心の会
 12月19日(土) 14時 グリーフケアのつどい

★どうぞお気軽にご参加下さい。

【あしがき】

▼母が亡くなりました。そこにいるのが当たり前だった人が去っていくことの大変さを痛感します。同時に、その人の死に向き合っていくことの大切さも痛感します。バタバタと雑務に追われ、ご報告が遅くなりましたこと、お詫びいたします。そして、母が皆様に大変お世話になりましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

▼あつという間の出来事でしたが、なんと今年、住職は還暦を迎えてしまいました。そう60歳です。順調に気力体力が衰えてきています。外見は初老ですが、中身はいたって未熟です。未熟のまま、教えに道を訪ねていきたいと思っています。

▼皆さまどうぞご自愛ください。(住職)



東京都世田谷区北鳥山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井 義一(釋諦信)

F-157-0061 TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp